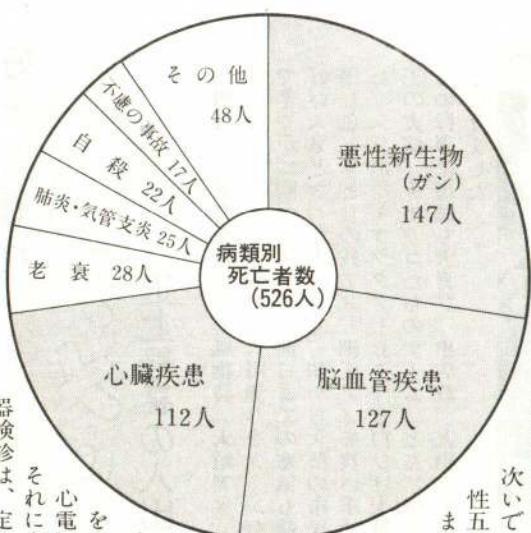


58年中病類別死亡状況調べ 成人病が全体の七割



五十八年の死亡者総数は五百二十六人で過去十年間で最高でした。特にガンによる死者は年々増加の一途をたどり、全体の二十八%を占めています。

昭和五十八年の市の病類別死亡状況が先ごろまとまりました。それによりますと悪性新生物(ガン)による死亡が百四十七人と、昨年につづき死亡順位のトップになっています。また、脳血管疾患(脳卒中など)は昨年より二十六人増え、これに心臓疾患を加えたいわゆる成人病による死亡率は、全体の約七割にも及んでいます。(保健センタ調べ)

寒い季節は特に脳卒中、心臓病など「血液の通り道」(循環器系)の病気で死亡する人が多くなります。寒さに注意し、規則正しい生活で健康には十分気を配りたいものです。

男性に多い 肺ガン、肝臓ガン

女性が五十四人。年代別では七十年代が約三十九%、次いで六十、八十年代となっていますが、五十代の方も多く、約十八%を占めています。このうち、肺ガンと肝臓ガンは圧倒的に男性に多くみられました。性五十七人、女性が七十人、また心臓疾患は男性五十四人、女性五十八人で、いずれも高齢者に多くみられました。これまで心臓疾患は二十代、三十代にあらわれており、日常生活には十分気を配りたいものです。

種類別では、相変わらず胃ガンが五十二人とトップ、次いで肺ガン二十二人、肝臓ガン十四人、直腸ガン十二人などとなっています。

血压は、気温、運動量、精神状態で変わりやすく、一回の測定で高血压かどうかは分かりません。しかし、何度も測つても高いようなら注意が必要。最大血压が160以上、最小血压が95以上が高血压とされる血压の値です。高血压には腎臓などの病気があって、その病気のために血压が上がる場合(二次性高血压)と、そのような原因のない場合とがあります。二次性高血压は、原因となる病気を取り除けば治りますが、原因がなくて血压の高い場合は、日常生活の改善や治療による根気のいる管理が必要です。

健康づくりは まず食生活から

成人病予防のために、調理や食事の時には次のこととに注意してみてください。

- ▼ 塩分は控えめ(一日10g以下)
- ▼ 脂肪のとり過ぎを避ける
- ▼ 暴飲暴食をしない



※健康についてのご相談は

☎ 42-9055

保健センター

栄養です。例えば、脳卒中、心臓病などを引き起こすものとして①食塩のとり過ぎ②血液に含まれる「コレステロール」の増加などが考えられます。コレステロールを増加させているのは脂肪、特に動物性脂肪です。

また、ガンについても、大腸ガン・乳ガンが脂肪のとり過ぎ、胃ガンは食塩のとり過ぎと密接な関係があるようです。

成人病予防のために、調理や食事の時には次のこととに注意してみてください。

▼ 塩分は控えめ(一日10g以下)

▼ 脂肪のとり過ぎを避ける

▼ 暴飲暴食をしない

▼ 野菜、果物、繊維質の食物を十分にとる

▼ 同じ物ばかり食べず、できるだけ多くの種類の食べ物を食べる。

健康づくりは特別な健康法を行なうよりもなく、三度の食事に対する心がけで十分な成果が得られます。恐しい成人病を予防し、健康な毎日を確保していくことは、個人と家庭の幸せの基矗であると同時に、医療費の適正化にもつながっていくのです。

(本の内容)

第一章……明治の「新政」と大館

第一節 行政制度の確立と大館

第二節 近代的教育制度の成立と発展

第三節 博文・成章書院の学統と明治の文化

第四節 「文明開化」と人びとの生活

第二章……産業の発展と人びとの暮らし

第一節 農林業の変貌と大館

第二節 鉱山の活況とくらしへの影響

第三節 交通・運輸の発達と商工業

第三章……大正時代の社会と文化

第一節 地域経済の発展と社会

第二節 大正デモクラシーと大館の文化

第三節 労働運動のはじまり

◇ 申込み 大館市字中城20

△ 価格 三千八百円

大館市史第三卷 「近・現代編(上)」を刊行

市では、大館市の歴史書「大館市史」の編さん事業を進めていますが、既刊の第一巻「原始・古代・中世編」、第二巻「近世編」、第四巻「民俗・文化編」につづいて、第三巻「近・現代編」の上巻を刊行しました。(「近・現代編」は、資料が膨大なことから、上・下巻に分けられており、上巻には明治・大正を、下巻には昭和が掲載されます。)購読ご希望の方は、市史編さん委員会までお申し込みください。なお、二・三・四巻の残部もありますので、併せてご購読ください。